

平成29年度第2回精華町社会教育委員会議 会議録

■日時

平成29年5月29日（月）午後1時から午後3時30分まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

- ・清水 眞理子 ・田中 智美 ・白畑 丈子 ・高鍋 房美・福味 眞樹紅
- ・吉川 博文 ・尾崎 麻由美 ・谷 譲二

■出席事務局職員

- ・教育委員会教育部生涯学習課長：仲村 大
- ・教育委員会教育部生涯学習課課長補佐：川畑 由香里

■傍聴者

なし

■内容

【視察研修】

- （福）盛和福祉会 京都大和の家

視察対応：児童養護施設副施設長 岡本 直彦 氏

- ・施設内見学

入所児童の生活スペースであるユニット及び学習に利用する学習室、相談や自立支援訓練のための訓練室などを各所の説明を受けながら見学。

- ・質問等意見交換

社会教育委員より施設の生活や説明内容に関する質問や、入所児童とその保護者が抱える問題点から社会で起きている問題点について研修した。

【会議】

1. 開会

2. 議事

(1) 視察研修の振り返り

田中委員長

- 大和の家での視察研修を終えて、振り返りを行う。職員の方から施設の生活や、家庭問題についてもお話しいただいた。委員の感想及び意見を求める。

【発言趣旨】

高鍋委員

- 入所児童について、大人が発する言葉に敏感になる子どももあり、そのケアも気になるが、支援する職員はリフレッシュできているのかが気になった。子どもに直接関わらなくても、見えないところでのボランティアだけでもできればと思った。

白畑委員

- 入所児童の学習支援に公文式を取り入れていることについて、以前は外部の講師が来ていると聞いていた。今は内部の職員が実施している。職員は児童の世話だけでなく書類作成などもあり苦勞が大きいと感じた。
- 施設がある地域の子供会や自治会行事には入所児童は参加してくれていて地域と交流がある。

清水委員

- 様々な事情がある児童たちだが、家庭生活が大切であると考えため、できるだけ家庭への復帰ができればと感じた。

谷委員

- 町にある施設で存在は認識していたが、中に入ったのは初めて。施設から町内の学校に通学していることも初めて知った。

尾崎委員

- 施設で幼少期から育った子が巣立っていくことを初めて知った。児童の背景を考えると胸が詰まる思いがある。

福味委員

- 今回初めて大和の家に行った。考えていたより雰囲気も明るく良い印象だった。そういった環境づくりに努めていることを感じた。その分対処するときには児童が寂しい思いをするのではないかと思った。

吉川委員

- ある施設では脱走なども多いと聞いている。子どもたちは色んな支えがあって育っている。家庭の環境が整わないと子どもが健全に育つには厳しい現実がある。

田中委員長

- 研修をさせていただいて、各委員が何かお手伝いができればという思いがあると感じた。施設開設時にはボランティアなどは入れないと話されていた。運営も一定期間され、地域や外部ができる支援はないか探してみたい。

(2) 平成29年度京都府社会教育委員連絡協議会総会について

【確認事項】

- ふれあい号にて送迎する。
- 6月30日の京都府社会教育連絡協議会総会への参加委員を確認した。

(3) 平成29年度山城地方社会教育委員連絡協議会総会について

【確認事項】

- 6月16日の山城地方社会教育委員連絡協議会総会への参加委員を確認した。

(4) 平成29年度近畿地区社会教育研究大会・平成29年度京都府社会教育研究大会について

【説明主旨】

- 9月7日の近畿地区社会教育研究大会については、大会運営協力員を1名選出する必要がある。
- 協力員は駐車場の誘導や参加受付など大会運営に協力するが、具体的な役割は決まっていない。
- 大会当日の分科会の希望について、本日参加の委員のみではあるが、第2希望まで聴取した。

【決定事項】

- 高鍋委員が大会運営協力員として選出された。
- 分科会希望については本日欠席している委員も含めて取りまとめの上、事務局より申し込む。

(5) 管外研修について

【説明主旨】

- 7月3日の管外研修について、行程の確認。
- 行程表を用いて一日の流れを説明。視察先「南丹市まちづくりデザインセンター」「京都匠塾」いずれもセンター長及び塾長の高橋博樹氏に担当していただく。
- 精華町役場帰着は17時頃予定。
- 現時点では全員参加予定。事務局は教育部長及び生涯学習課川畑が参加予定。人数13名。

(6) 次回委員会議

平成29年8月28日(月) 10時～

4 閉会